

都市環境学習センターの活動報告 ~10月から11月までこんな活動しました~

どんぐり通信

【どんぐり通信】VOL. 7
2009年12月号
発行日 2009年12月10日
発行人 都市環境学習センター
運営 特定非営利活動法人
愛媛生態系保全管理
〒791-8024
松山市朝日ヶ丘一丁目1633-2
Tel・Fax 089-911-0250

タケ切り体験

11月15日(日)



ノコギリは引くときに力を入れ、真っ直ぐ一直線にリズム良く動かすと切れるよ。竹は倒したい方向に切り込みを入れ、反対側から切る。竹の重みでノコギリに乗りなさいよ。切り込みを入れた方向に力を入れて傾けると、あとは竹の重みで倒れるから、倒れてくる方向を注意しよう。

草木の染めもの観察会

11月8日(日)



メリケンカキカヤは土手などに多く生えていて、染まる力が強い植物。染まる色は黄色。シャリンバイは実や葉よりも枝を煮出して使います。染まる力はあまり強くないので、濃い染めものを作る場合はたくさん煮出して染める回数を増やす必要があるんだって。

カブトムシ牧場調査

10月12日(月・祝)



カブトムシはクヌギやアヤマキの腐葉土を好み、地面から30~60cmの間にたくさんいたよ。また芝の腐葉土でも自然のカブトムシ産卵をして、育つことも分かった。幼虫を家で飼うときは土の中が餌だけに足りないよう糞を取り除く。4月頃には触らないようにするんだ。

10月のゆるりん歩き

~きのこ・木の実~ 10月11日(日)



キノコは基本的に食べては駄目。虫食い、縦に裂ける、傘と一緒には煮たら大丈夫、というのには迷信。他の動物が食べて大丈夫でも人間だと毒に当たる場合も。間違えて無理矢理食べては「大丈夫」と食べてしまう事は非常に危険で、間違えて食べてないキノコの方が多よ。

親子水辺教室

~重信川河口~ 10月4日(日)

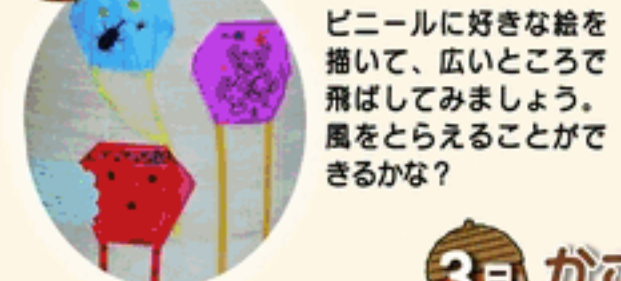


ハクセンシオマネキは、片方のハゲミが極端に大きく、海に向かってハゲミを振っているように見えるので、潮引き(シオマネキ)と名前が付いたそう。アザミはこの時期もよく開くらしい。牡蠣の養殖に使った物が古くなり壊れた塩ビパイプの破片が、海岸に打ち上げられていたよ。

ネイチャークラフト

都市環境学習センターでは、クラフトコーナーを設けています。自然素材を材料にして、さわったり、におったり、色や形から想像したりする工作のほか、季節を感じる仕組みの作品が作れます。毎月テーマが変わります。お楽しみに。

12月 ビニールたこ作り



- 受付時間 午前10時~11時30分/午後1時~4時
- 材料費 無料(1人1作品まで)
- 小学生以下は保護者同伴
- 休館日はお休みです



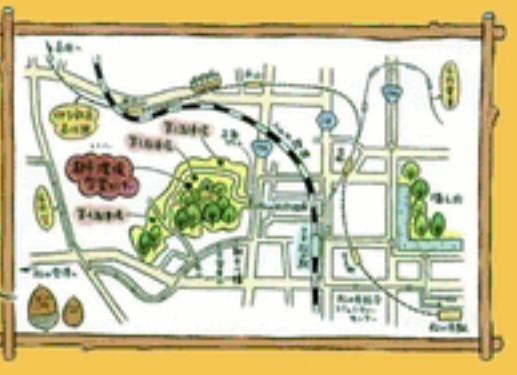
3月 がざぐるま作り



ラミネートした折り紙を使って、がざぐるまを作ります。ぐるぐる回るのはどうしてかな?風はどっちから強く吹いてくるかな?

今後の活動予定

- 1/17(日) 1月のゆるりん歩き~冬芽~
 - 2/7(日) 火おこして学ぶ自然教室
 - 1/23(土)、24(日) みんなの生活展 in アイテム愛媛
- 申し込み・問い合わせ
都市環境学習センター
Tel・Fax 089-911-0250
開館時間/10:00~16:30
休館日/毎週月曜(月曜が祝祭日の場合翌日休館)
年末年始(12/28~1/4)



自然案内人に聞きました。

遊び心を大切に

内子町小田深山で、小学一年生から中学三年生までの子どもたちが参加する自然体験キャンプをサポーターしている金子美恵さんに、お話をうかがいました。

夏のキャンプの思い出から
標高千メートル以上の高地にある内子町の小田深山。夏は涼しく、冬は雪が降り始めるほどの寒さの中で、使われなくなった小田深山小学校の敷地やその周辺の自然を利用して、様々な体験活動を行っているのが、特定非営利活動法人ODAの木協会の学校と書かれた看板を見ながら、ボランティアスタッフの金子美恵さんの案内で敷地に入ると、校庭の端から続く斜面の木の間に、ツリハワスを見つけた。夏のキャンプで子どもたちが作ったこのこと。急な斜面を、どうやって坂や丸太を運んだのかと、と話を聞いてみると、「子どもたちで運んだんです。足場が悪いと分がると、スコップで土を削り、階段を作っていました。」と金子さん。たくましい子どもたちの姿を思い出しているようにも感じました。

いろいろな人とかがわかる中で
森の学校では、毎年、夏休みと冬休みに、小学一年生から中学三年生までの子どもたちのキャンプを実施しています。子どもたちと生活を共にし、キャンプを支えるのは、社会人や学生のボランティアスタッフ。二泊三日、長いときは八泊九日の日程の中で、ハイキングやクラフト、ゲームなど、どんな体験をするかを考え、準備するのが金子さんの役割です。

地域の人の協力も必要です。林業の盛んな土地柄から、チェーンソーで木を伐り倒すところを見せられて、夏の灯籠祭りには、灯籠をつくるころから参加させてもらったり。様々な年齢の大人たちが、自分の経験を伝えようと、子どもたちに向き合ってくれます。

「誰よりも私が一番、体験を楽しんでいるかも私かもしれません。」
金子さんをはじめ、スタッフのほとんどが町育ち。スタッフ自身も小田深山での体験を楽しんでいる。子どもたちを見守る、という距離感を保つようにしているそう。自然だけでなく人にも思ってもらえるようなキャンプだと思えました。

子どもたちが子とモウらへ
雨でハイキングに行けなかったり、お自当の虫が見つからなかったり。自然は、子どもたちの思うようにはなりません。

「つまらない、子どもが言ってきたときは、チャンスなんです。」
つまらない気持ちには、受け止めるでも、具体的な遊びは提案しない。すると、雨で外遊びができず、外で水を溜めて「排水溝、作ってるんだ」と作業してたりする。

「ほつたらがすのではなく、目の端に入れて、遊びが生まれるのを待つんです。」
「何もできないことでも、自分たちで思いついて、みんなで作れば楽しくて、心から笑い合える。その中で、誰かに頼ったり、自分より小さい子思いやったり、意見を分かち合ったり、自分を取り巻くいろいろな関係を学んでいきます。」
「参加した子どもたちが、帰りに、ちよと変わったな、と思えるときが、一番うれしいです。」
「参加した子どもたちが、帰りに、ちよと変わったな、と思えるときが、一番うれしいです。」
「参加した子どもたちが、帰りに、ちよと変わったな、と思えるときが、一番うれしいです。」

田深山の自然の中で、人間らしさを取り戻すのは、子どもたちだけではないのかもかもしれません。



昨年の夏のキャンプでは、羽子板と羽根をつくったり、雪遊びをしたりしました。